

## 県職員として半年過ごした経験から

飯塚支部 飯塚県土整備事務所 廣田智哉

この半年は初めて経験することばかりで、あっという間でした。新しく覚えること、答えが分からないこと、学生の頃には経験できなかった目上の方々との人間関係や仕事が多く存在しました。県の職員として過ごしてきた半年の中で私が特に実感させられていることは、学生の頃してきた勉強が仕事で役に立つことばかりでは無いということです。

私は4月より福岡県職員として採用され、出先事務所の道路建設課に配属されました。最初に担当した現場は、側溝と舗装だけの比較的簡単な現場です。新採であり分からないことばかりであるため、上司や先輩職員に指導をいただき、特に業者との打合せや地元の方との立会時には上司や先輩職員に同席していただきました。業者や地元の方々からすれば、自分が新人であることに関係無く、一県職員として自分のことを見ているため、打合せで発言できない、地元の方々に事業の説明ができないことに対して恥ずかしく感じたことを覚えています。また、この現場を担当している間に失敗した経験があります。まだ知識も経験もない中自分一人で何かしよう、と業者の方との打合せの予定を立てました。業者の予定だけを考慮して日程を決定しましたが、上司の予定を確認しておりませんでした。

しかし、上司にはその時間別の予定が入っており、わざわざ当初の予定をずらしていただき、打合せに同席していただくこととなり、上司やその周辺の方々に多大な迷惑をかけてしまいました。後から考えると、自分のことしか考えていない行動が恐ろしいものであったと思います。学生の頃は1人黙々と勉強していても周りに迷惑をかけることはありませんが、今の仕事で1人黙々と仕事をしていくのは、良い仕事のやり方ではないなと感じました。個人で仕事をしているのではなく、組織として仕事をしている、という認識が必要です。私も意識を変えることにより、情報の共有や、コミュニケーションといった行動がとれるようになってきました。

また、私は職場の先輩方々に視野が狭い、と言われることがあります。上司や先輩と現場に行く時、私は現場が動いている箇所だけを見えています。しかし、上司や先輩は現場が動いていない場所もよく見えています。もし、たとえば、念の為、といった想定をすることで現場の安全を管理することや、地元の方々への配慮を行っておりました。また、設計書であげている施工方法を、現場の状況によって変える必要がある場合があります。そういった変更も幅広い目で現場を見ていれば、いち早く気づくことができます。ある時「現場には沢山行け」と、とある先輩に言われたことがあります。言われた当初はただ、とりあえず沢山現場に行けばいいのか、と考えておりました。しかし、何も考えず現場に行くことは、回数を多くしたところで何も意味がありません。私は先輩の言われた言葉を、現場でしか学べないことが沢山あるから、より現場を多く見て、考えて、より多く経験をしろというアドバイスなのだとは私は捉えています。学生の頃は机上で計算やら写真だけをみて

学んでおりましたが、現場を見ずに仕事を進めていくことは不可能です。まさに、学生の頃してきた勉強が、今の仕事では実際に役に立つ事ばかりではないということです。

今は採用から半年が経ち、仕事にも慣れてきました。そのような中、ある研修で福岡県職員の先輩に言われたことがあります。「仕事や人間関係に慣れが来た時こそ、気が緩み日頃の行いに注意が必要である」というものです。まさに、今の自分がその時であると思いました。仕事に慣れることばかりを考え、実際に慣れを迎え来たその反面、採用されてすぐの頃気を付けていたこと、意識していたことが薄れて来ていることに気づかされました。職場での身だしなみや、作業机周辺の整理整頓、これらに気の緩みが表れています。半年という一つの節目で自分の現状を見直すことができたのは良かったと思います。一年目の残り半年を切りましたが、残された時間で自分の県職員としてのベースを作り、一人前になれるよう努めていきます。